

たより



平成 29 年 7 月 1 8 日
伊勢市教育研究所
伊勢市桜木町 55-1 (旧さくらぎ保育所)

若手教員の学びを支える研修講座「授業づくり①(学級づくり)」

「学級経営・授業規律の確立～話を聞ける子を育てる～」

6月12日(月)に「若手教員の学びを支える研修講座」の第二弾を実施しました。講師には前小俣小学校教頭で、現在は有緞小学校で教諭として活躍しておられる楠木宏先生をお招きしました。

「授業規律の確立」を主なテーマに、話を聞ける子を育てるためのさまざまな方法、教師の話し方や姿勢について、今すぐ実践したい具体的な内容をたくさん教えていただきました。



<楠木先生のお話より>

- まず付けるのは「聞く力」。45分授業のうち、子どもが話す時間が1分程度だとすれば、聞く力は話す力の44倍大切。
- 教師の話や指示は1回。1度話したら2度と言わない。子どもの発言も繰り返したり補足したりしない。聞いてないと困るように仕組んでいく。ゴールデンウィークまでに徹底させたい。
- わかりやすい話し方をしているか、興味の持てる話をしているか、また、話しすぎていないか、教師自身も振り返る。
- 「叱る」と「怒る」、「アメ」と「ムシ(無視)」を使い分け、問題行動の多い子どもほど、褒めて育てる。
- 保護者との信頼関係を築く。学級通信は保護者にとって情報源であり、教師の思いや考えを伝える大切なツール。



<受講者のアンケートより(抜粋)>

- 「教師は話しすぎだ」そう言われた時に、自分のこれまでの生活をふり返り、「しまった…」と強く後悔しました。自分の学級にどうも聞く力がついていないなと思い、今回の研修に参加しましたが、その原因は私自身にあったことを思い知りました。
- 子どもたちにきちんと聞く力を鍛えることがすべての教育活動の土台になるということを改めて考えさせていただくことができました。よく聞くことができるようになったら、子どもたちは話したくなる、というところで納得しました。きちんと規律ができた学級づくり、授業づくりをした上で、のびのびと子どもが学べる実践をしていきたいと思いました。
- 学習規律の確立について、自分自身気をつけているつもりでいましたが、楠木先生のお話を聞いてまだまだ甘かったなと思うところがあったので、甘い先生ではなく、優しいけど厳しい先生になれるように自分のこともふり返って成長していきたいと思いました。
- 子どもたちへの指導におけるアプローチの仕方が様々な方向からあり、それらが知れてとても勉強になりました。若手ということもあり経験も無いので、指導の引き出しが多い先生の講義はありがたいです。





↓ 第1回「カウンセリングリーダー研修」スタート!

鈴鹿医療科学大学と連携し、本年度から始まったカウンセリングマインド向上研修。6月26日(月)に「第1回カウンセリングリーダー研修」を実施しました。各小中学校から選出されたカウンセリングリーダー34名が「カウンセリングの基本」を学びました。

下記に講座内容を振り返りたいと思います。

第2回

カウンセリングリーダー研修

日時：7月25日(火) 14:00~

場所：ハートプラザみその

保健会議室

- 子どもをチームで支え、支援をつなげていくことが大切。その子の苦手な部分を理解し、その子に適した道筋を見つけていく。子どもはいろいろな人との相互作用で育っていく。
- アサーティブコミュニケーションをめざして、対人関係にトラブルがあったときには、自分にも問題があると自覚すること、自分の感情をコントロールして話すこと(いつもよりゆっくり、落ち着いて話す)、相手の立場になって考え、自分に不適切なところがあれば素直に謝ること(そのときでなければ後からでも)が改善のポイント。
- エゴグラムは対人関係やコミュニケーションの傾向を推測することができる。それらを自覚することは、対する子どもたちや保護者のためだけでなく、自身のメンタルヘルスを保つ上で大切。
- 子どもたちにも人と心地よく関わるができる実体験をさせてやるとよい。



★ アサーティブコミュニケーション ★

自分も相手も大切にコミュニケーション

アサーティブ(=Assertive)とは、自分を一步前に押し出すこと。前向きに率直に自分を表現すること。

★ エゴグラム ★

アメリカの心理学者エリック・バーン博士が創始した「交流分析」という人間関係の心理学理論に基づいて作られた性格診断テスト。人の性格を5つの心の領域(CP・NP・A・FC・AC)に分けて分析している。偏りや傾向をとらえる。

- ◆CP(controlling parent)…「支配的な親」の自我状態
正義感、道徳心、責任感、良心
- ◆NP(nurturing parent)…「養育的な親」の自我状態
優しさ、思いやり、慣用性、受容性、共感性
- ◆A(adult ego state)…「合理的な大人」の自我状態
知性、理性、冷静さ、論理性、判断力、現実志向性
- ◆FC(free child)…「天真爛漫な子ども」の自我状態
直観力、創造性、自由奔放さ、好奇心、自発性、活気
- ◆AC(adapted child)…「従順な子ども」の自我状態
素直さ、協調性、忍耐力、奥ゆかしさ、礼儀正しさ

カウンセリングリーダーの声

- アサーティブコミュニケーションをめざすために大切なことがわかった。エゴグラムで自己分析できたので、気をつけていきたいことがわかった。
- エゴグラムを実施し、今の自分の傾向を知ることができました。プラス面もマイナス面も両方出ることがあるということも知れて良かったです。自校でも、職員を対象にエゴグラムを実施するのもいいなと思いました。
- コミュニケーション改善ポイントにドキッとした部分がありました。「感情的になった時はいつもよりゆっくり、落ち着いて話す」ということをまず心がけたいと思いました。“どの子にも伝えたい思いがある”という言葉がいつも心にとめて、子どもたちの思いに耳を傾けていきたいです。

